

特集 ふしぎな話

今回の LIKES! は夏合併号です！紹介する本も普段より増やしてみました！
この夏にうってつけの本をそろえています！ぜひご覧ください（'▽`）

『シトロン坂を登ったら』 大正浪漫横濱魔女学校1 既刊2巻

白鷺 あおい／著 おとない ちあき／カバーイラスト 東京創元社 創元推理文庫

横濱女子仏語塾。うら若き乙女たちの学び舎にはたくさんの秘密がありました。ここは魔女学校で、生徒の約半数が妖魅と呼ばれる人ならぬ種族だったのです。

時は大正、魔女の卵たちと巨大な猫（？）が出会うとき、この物語は動き出します。

（魔女に妖魅に大正浪漫、なんてステキな響きなんでしょう！）

『青い灯の百物語』

椎名 なるは 喚葉／著 七原 しえ／カバーイラスト 集英社 集英社オレンジ文庫

代々、人と物の怪の間を取り持ってきた真魚寺家の娘である千歳は、百物語の怪異・
あおはらあかり 青原灯を継ぐつもりのない家業を手伝ってきた。様々な依頼を受ける中、一族に隠された秘密に触れることに…。

百の怪談を語り終えると本物が現れるという百物語。この物語の最後には、何が現れるのでしょうか。

（いつかやってみたいと常々思っています。百物語。）

『ボタン屋つぼみ来客簿』 さまよう彼らの探しもの

きりしま しょま 深山 キリ／カバーイラスト 集英社 集英社オレンジ文庫

『僕たちは同じひとつの夢を見る』

しまだ りりり／著 TCB／カバーイラスト 集英社 集英社オレンジ文庫

不思議なモノが覗えてしまう体質に悩む大学生・貝ノ目遠流は霧の濃い日、何十頭もの角のはえた馬・一角獣（ユニコーン）の群れに遭遇する。ここは、だいば市、異次元世界との壁が薄い特別な場所だった。そして、遠流の覗えてしまう体質には何やら理由があるようで。

2つの世界の交わりが遠流の日常を変えていきます。この交わりにはどんな意味があるのか、ひょっとすると、今の私たちにも大切なことかもしれません。

（ちなみにだいば市は北関東のどこかにあるようです。行けるものなら行ってみたい。）

みなづきなのか 皆月菜乃香はイライラしていました。そんな中、菜乃香はあるお店を発見します。そこでは、訪ねた人が探しているボタンを必ず見つけられるという奇妙なボタン屋でした。

菜乃香は高校3年生。将来は服飾の専門学校を目指していることもあり、連日通うようになります。

ですが、このお店には何か秘密があるようで…。

ボタン屋というめずらしい舞台でつづられています。スッと物語の世界に入り込める作品です。ぜひお読みください。

『虹色ほたる 上・下』 永遠の夏休み

川口 雅幸／著 丸山 薫／illustration アルファポリス アルファポリス文庫

ある夏、交通事故で亡くなった父との思い出深いダムに、ユウタは1人でやってきました。ところが、ダム湖で急に天候が悪くなり、ユウタは足を滑らせ崖の下へと転落してしまいます。

目を覚ますと、ユウタは1970年代の、まだダム湖がダム湖となる以前の世界へとタイムスリップをしていました。ユウタのもう一つの夏休みが始まります。

ユウタは1970年代の世界でどのような夏休みを過ごすのか、ユウタは無事に元の時代へ帰ることができますか。最後に訪れる「奇跡」を、ぜひあなたの目で確かめてみてください。

『思い出のマーニー』 新訳

ジョン・G・ロビンソン／作 越前 敏弥／訳 ないと ふみこ／訳 戸部 淑／絵 KADOKAWA 角川
つばさ文庫

アンナは小さい頃に両親を亡くし、養女として育てられ、誰も信用できずに心を閉ざしていました。

そんな時、海辺の村で過ごすこととなり、マーニーという不思議な女の子と出会います。アンナはマーニーと友情を深めていきますが、ある嵐の夜にマーニーはアンナを置いて消えてしまいました。

マーニーは一体何者なのか、アンナの閉ざされた心は開かれるのか。

スタジオジブリの映画をご存じの方も多いと思います。映画と小説を見比べてみるのはいかがでしょうか。



夏合併号ということで普段は1冊のみ特選ですが、今回は3冊ご用意しています！気になる本は見つかるかな？

『世界を変えた150の科学の本』

ブライアン・クレッグ／著 石黒 千秋／訳
NILSON design studio (望月 昭秀)／組版・装丁 創元社

タイトルを見ると、数式や専門用語がとびかう難しい本をイメージするかもしれないが、とんでもない！

表紙も作中も、少し怪しい雰囲気も漂う美しい魔術書のような装丁が続く。どっしりとした重量があるが、全ページカラーで図解も多いので読みやすい。1冊の本がどうやって世界を変えたのか！？

1日数ページずつ、じっくりゆっくり楽しみたい本。

『ヤオと七つの時空の謎』

芦部 拓／編者 獅子宮 敏彦ほか／著 猫月 ユキ／装画 南雲堂

紙の本が珍しくなった世界。今はなき図書館で出会った1冊の本をヤオが思い出すとき、鏡のかけらを探す時空をかける冒険が始まります。

6人の作家たちが語る歴史物語の中で、ヤオが見つける答えとは？

『の』

junaida／著 福音館書店

「わたしの」「お気に入りのコートの」「ポケットの中のお城の」というように「の」という言葉がつないでいくお話。次々とページをめくりたくなるような絵本です。「の」の言葉の魅力を素敵な絵とともに感じてみてください。